

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：32702

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25580073

研究課題名(和文) 都市ローマをめぐる18-20世紀英仏独伊語圏における表象史

研究課題名(英文) Research into the representations of Rome found in 18th to 20th century English, French, German, and Italian speaking countries

研究代表者

鳥越 輝昭 (TORIGOE, Teruaki)

神奈川大学・外国語学部・教授

研究者番号：50164075

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：都市ローマについて、18～20世紀の英・仏・独・伊語圏において詩文・史書・絵画・オペラ・映画・建築物のなかで提示された表象を、地域横断的かつジャンル横断的に分析することによって、ヨーロッパの精神史を浮かび上がらせようとする研究であり、アプローチの点で世界的にめずらしい。3年間にわたって事例多数を分析することにより、今後の本格的な研究への糸口となる成果をあげることができた。

研究成果の概要(英文)：This study aimed at gaining an insight into the intellectual history of eighteenth to twentieth century Europe by analyzing the representations of Rome presented in literature, history, painting and printing, opera, films, and architecture produced in English, French, German, and Italian speaking countries. The three-year research unique in its broad approach has achieved the results that will lead to a later full-scale research on this subject.

研究分野：比較文学・比較文化史

キーワード：ヨーロッパ 精神史 ローマ 表象 詩文 歴史記述 絵画 映画

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 報告者は長らくヨーロッパの精神史に関心を持ち、当該科研費の申請以前に訳書『近現代ヨーロッパの思想—その全体像』(F・パウマー著、大修館書店、1992)を出版していた。そして、ヨーロッパ精神史の研究を直接的にはイタリアの都市ヴェネツィアをめぐる表象史のかたちで20年以上おこなって、すでに3冊の単著を出版していた。すなわち、『ヴェネツィアの光と影—ヨーロッパ精神史のこころみ』(大修館書店、1994)、『ヴェネツィア詩文繚乱—文学者を魅了した都市』(三和書籍、2003)、『表象のヴェネツィア—詩と美と悪魔』(春風社、2012)である。その研究は、17~20世紀のヴェネツィアが、詩文、史書、絵画、オペラ、映画のなかでどのように描き出されたかを分析し、その精神的背景を洞察しようとするものだった。

(2) 報告者は、当該科研費の申請に先立つ2~3年のあいだ、都市ローマをめぐる表象史を考察してみる必要を強く感じていた。ヨーロッパ精神史の考察対象としては脇道の感があるヴェネツィアと異なり、ローマはその根幹にかかわる対象だったからである。そして、すでに申請に先立って考察に着手し、映画と詩文とを跨いで考察した論文『『ローマの休日』とパイロン』(神奈川大学人文学会『人文研究』、2012)を発表していた。

### 2. 研究の目的

最大の目的は、挑戦的かつ萌芽的なかたちで、イタリアの都市ローマをめぐる本格的な表象史研究の糸口を見つけることだった。具体的にはつぎの4点を目標とした。

- (1) ローマをめぐる史的な表象分析により、ヨーロッパ精神史の全体的動向を洞察する。
- (2) 当面、18~20世紀のローマ表象史を考察してみる。
- (3) 詩文、史書、絵画、オペラ、映画、建築のジャンルを横断的に検討して異同を見極める。
- (4) 英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語の言語圏を横断的に検討して異同を見極める。

### 3. 研究の方法

研究にあたってはつぎの方法を採用した。

- (1) ヴェネツィアをめぐる表象史研究で習熟した方法をローマに応用する。
- (2) 検討を20世紀から始めて18世紀へと遡行してみる。
- (3) ジャンル横断的に研究資料になりそうなものを幅広く収集し、一見のうち、追求の価値があるものを深く検討する。
- (4) 個別の研究資料に関する優れた先行研究があれば参照する。
- (5) 研究資料に言及あるいは描写されて

いる場所はかならず現地踏査する。

### 4. 研究成果

当該研究は、ローマを表象という観点からジャンル横断的かつ言語圏横断的に取り扱う点で世界的に見ても稀なものである。すでにアプローチ自体が成果のひとつだともいえるが、以下では、当該研究に関して発表済みの論文6点と共著書1点について略述する。

(1) 論文「奪い返す『自然』と抗う想像力—ピラネージのローマ表象をめぐる—」

18世紀イタリアの版画家・建築家ピラネージによるローマを主題にした版画を分析するとともに、師ジュゼッペ・ヴァージの版画と比較し、また、ピラネージのローマ版画に見られる態度を、マキャヴェッリ、モンテスキュー、ギボン、ミシュレ、モムゼンの古代ローマに対する態度と比較し、つぎの3点を指摘した。

ピラネージが、一方では、文明をそれ以前の状態を引き戻そうとする「自然」を描きながら、もう一方では、想像力によってそれに抗い、自然をふたたび文明化しようとしていたこと。

ピラネージは、古代のローマに関心を集中することによって時代を超えて生き延び、対照的に、版画家ジュゼッペ・ヴァージは当時のローマに関心を集中することによって、時代に埋没し忘却されたこと。

ピラネージは、古代ローマの上昇期に関心を向け敬意をもって描き出したが、そのような関心の持ち方は、同時代のモンテスキューやギボンのローマ表象とは異なり、むしろルネサンス期のマキャヴェッリや、のちの19世紀のミシュレやモムゼンのローマ表象と類似していたこと。

(2) 論文「『恋愛専科』とローマ—保守性、ローマの選択、魔女、ユダヤ性—」

アメリカ映画『恋愛専科 *Rome Adventure*』(1962)をその原作のアメリカ小説 *Lovers Must Learn* (1932)と対比しながら考察し、映画版に見られるローマ表象について、つぎの3点を指摘した。

映画は舞台をパリからローマに変更しているが、理由のひとつは、それ以前に成功した『ローマの休日』『愛の泉』などの持っていたローマ観光性に倣いつつ強化するためだったろうということ。

上記の変更のもうひとつの理由は、保守的立場のこの映画から見た場合、1950~1960年代になると、自由恋愛によって墮落している場所としてはパリよりもローマの方が適当に見えたのだらうということ。

女主人公と三角関係になる女性が、映画では原作よりも魔女性を増し、端的な魔女の表象をともないながら墮落の場ロー

マにふさわしく置かれていること。

(3) 共著書『18世紀ヨーロッパ生活絵引—都市の暮らしと市門、広場、街路、水辺、橋—』

本書は、全体としては、18世紀に描かれた絵画・版画54点を素材として、それらのなかに描き出されているロンドン、パリ、ミュンヘン、ウィーン、ヴェネツィア、ローマと人々の様子を、市門・広場・街路・水辺・橋という切口から分類・解説し、描かれている事物の名称を明示した書物である。報告者は、全体の企画・調整と、ロンドン、ヴェネツィア、ローマの部分の執筆・校正を担当した。

ローマについては、10点の絵画・版画(市門1、広場7、街路1、水辺1)を素材として、この都市の外観と人々がどのように表象されているかについて解説し、描き込まれている事物の名称を示した。

(4) 論文「『ヴィットリアーノ』の外と内—ヴィットリオ・エマヌエーレ2世国立記念堂に見るローマ—」

ローマの中心部に設置されたヴィットリオ・エマヌエーレ2世国立記念堂(「ヴィットリアーノ」)について、ローマのパンテオンとも比較しながら、つぎの4点を指摘した。

外面に古代ローマの栄光を表すもののみを溢れさせている点が、ローマカトリック教会と対立したイタリア王権の悲運を暗示していること。

外面に付加された「祖国の祭壇」がナショナリズム称揚を倍加した一方で、ローマカトリックの祭壇を内部に隠蔽したこと。

ムッソリーニによる「ヴィットリアーノ」関連の諸施策は、先行のイタリア王政府の施策を完成させるものだったこと。

キリスト教会に転用されていたパンテオンから聖霊の祭壇を取り去りヴィットリオ・エマヌエーレ2世の墓にした点が、教会としての鐘楼を取り去ったのと同時期に起こっており、ナショナリズムがキリスト教会を圧倒したことの表れだったこと。

(4) 論文「『ローマの女』のローマ性」

イタリアの作家アルベルト・モラヴィア作『ローマの女 *La Romana*』(1947)のなかの主人公である「生粋のローマ娘」について何が「ローマ的」と見なされているのかを分析し、つぎの4点を指摘した。

社会的・経済的な上昇意志が不在であること。

娼婦業の報酬として金銭を受け取ることには懐疑的であるばかりか、金銭に「罪の影」を感じ取っていること。

神から「現世利益」的な報いを求めないこと。

上記3点が、執筆にあたって参照された

18世紀の英国小説『モル・フランダース』の主人公と正反対であること。

(5) 論文「『ローマの哀愁』に無いローマと在るローマ」

アメリカ作家テネシー・ウィリアムズの小説『ストーン夫人のローマの春 *Roman Spring of Mrs. Stone*』(1950)とその映画化『ローマの哀愁 *Roman Spring of Mrs. Stone*』(1961)とを考察し、これら2作のなかに見られるローマ表象としてつぎの2点を指摘した。

原作にも映画にも古代ローマ、救済都市ローマ、政治首都ローマという表象が存在しないが、それは主人公を、中等教育を受けただけの信仰のないアメリカ女性と設定したことと関係していること。

それゆえに、主人公は、ローマ人の墮落という古代のコウエナリス以来の表象を直接的に体験し、富裕な他者に寄生しながら3000年間生き延びてきた生の都ローマ(=永遠の都の新解釈)を直接的に体験すること。

(6) 論文「『愛の泉』とその原作(?)のなかのローマ」

アメリカの大衆映画『愛の泉 *Three Coins in the Fountain*』(1954)とその原作となったアメリカ小説 *Coins in the Fountain* (1953)とを考察し、これら2作のなかに見られるローマの表象について、つぎの4点を指摘した。

原作は、ローマに長期滞在をしてきたアメリカ人たちがそこに最終的な居場所を見つけられない話であるのを、映画は、テレビの泉の霊験物語に変更していること。

映画は、映像の構成によりローマを水都と表象していること。

原作と映画がともに、マーシャルプランを与える側アメリカと、それを受ける側の極端な経済格差を背景にしていること。原作と映画がどちらも、アメリカ人とアジア的現地人との国際結婚を祝福する一面をもっていること。

なお、当該科研費を受けた研究については、まだ考察途中のため発表に至っていないものがある。また、報告者は申請段階から、ローマの各種の表象のなかで、古代ローマをめぐる表象が重要な位置を占めるだろうと予測していたが、それが予想をはるかに上回るものであることを確信するとともに、古代ローマ時代の文献についての認識が不十分であることを痛感し、当時に書かれた詩文・史書・思想書などを熟読中である。この知識は今後のローマ表象史研究に生かしてゆくつもりであり、報告者自身は、これも当該研究の重要な成果だったと考えている。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6 件)

鳥越輝昭、奪い返す「自然」と抗う想像力—ピラネージのローマ表象をめぐって—、人文研究所報、査読無、No.55、2016、1-20  
<http://klibredb.lib.kanagawa-u.ac.jp/dspace/handle/10487/800>

鳥越輝昭、『恋愛専科』とローマ—保守性、ローマの選択、魔女、ユダヤ性—、人文研究、査読無、No.187、2015、1-32  
<http://klibredb.lib.kanagawa-u.ac.jp/dspace/handle/10487/800>

鳥越輝昭、「ヴィットリアーノ」の外と内—ヴィットリオ・エマヌエーレ2世国立記念堂に見るローマ—、人文研究、査読無、No.184、2014、1-32  
<http://klibredb.lib.kanagawa-u.ac.jp/dspace/handle/10487/800>

鳥越輝昭、『ローマの女』のローマ性、人文研究、査読無、No.182、2014、23-61  
<http://klibredb.lib.kanagawa-u.ac.jp/dspace/handle/10487/800>

鳥越輝昭、『ローマの哀愁』に無いローマと在るローマ、人文研究、査読無、No.181、2013、1-35  
<http://klibredb.lib.kanagawa-u.ac.jp/dspace/handle/10487/800>

鳥越輝昭、『愛の泉』とその原作(?)のなかのローマ、人文研究、査読無、No.180、2013、37-73  
<http://klibredb.lib.kanagawa-u.ac.jp/dspace/handle/10487/800>

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 1 件)

(1) 鳥越輝昭他、神奈川大学常民文化研究所非文字資料研究センター、18世紀ヨーロッパ生活絵引—都市の暮らしと市門、広場、街路、水辺、橋—、2015、223

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：

種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鳥越輝昭 (TORIGOE, Teruaki)  
神奈川大学・外国語学部・教授  
研究者番号：50164075

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：